

2023年度(2024年3月期)中間期決算説明会質疑応答(要旨)

日時: 2023年11月8日 13:00-14:00

【2Q/中間期業績について】

Q: 中間期末の受注残は前年同期比と比較して増えているのか。

A: 増加している。

Q: 計測セグメントの中国における2Qの状況を教えてほしい。

A: アカデミア市場が大きく伸びた。一方、医薬やCRO(受託分析)は低迷。

【通期業績予想について】

Q: 計測セグメントの期初予想と今回の修正した予想を為替除きで比較するとどうなるのか。

A: 約1.5%増加を見込んでいる。なお、前年と比較すると、為替除きでは約7%増加を見込んでいる。

Q: 計測セグメント営業利益率が期初予想の18.5%から18.3%に変更されている要因は。

A: 利益率の高いコロナ試薬が計画より減少することなどが要因。

Q: 食品検査市場に向けた取り組みの業績への影響は。

A: 昨年度連結化した島津ダイアグノスティクス(旧: 日水製薬)は菌の有無確認のための培地を製品として扱っており、これに食品安全向けの製品群を組み合わせることで食品検査のトータルソリューションとして提供していきたい。また、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共同で、健康に良い機能性成分を含む食品による人の健康への取り組みを進めている。この機能性成分の分析は、中長期的に成長する分野であると考えている。

【計測機器事業/中国の事業環境について】

Q: 中国下期の市況について。

A: 医薬・CRO市場が厳しく推移すると想定している。一方、政府支援策が実施される地方の教育機関や、需要が増加している臨床、グリーン向けは期待できる。当社は豊富な製品ラインナップを保有しており、あらゆる分野の需要に対応することが出来るため、様々な取り組みを進め業績確保に努めていきたいと考えている。

Q: 2025年に実施される薬典改定の影響について。

A: 薬典改定による規制強化は追い風になると考えている。特に、従来には無い規制がつけられると、新たなビジネスチャンスが生まれることになり業績への影響は大きい。既に需要取り込みに向けて準備をしている。

【計測機器事業/北米の事業環境】

Q：北米下期の医薬市場の市況について。

A：1Qは医薬メーカーが投資に対して慎重な姿勢を見せていたが、2Qでは回復しつつある。下期もこの傾向は継続すると想定している。

Q：北米医薬市場で島津が健闘している背景を教えてください。

A：2Qになり中小製薬メーカーの設備投資回復により、当社が需要を取り込めた事などが要因。

【来年度の見通しについて】

Q：年度末の受注残見込は。

A：9月末時点は前年と比較して受注残が増えたが、年度末が同様かどうかは、もう少し時間をかけて見極めたい。

Q：計測セグメントの来年度の見通しについて。

A：製品の強化や様々な取り組みで成長を目論んでいる。

以上